

野々市の獅子舞の用語

●獅子頭（ししがしら）

獅子の頭となる部分。木製（主に桐材）で、木目を見せるもの、皮を張るもの、漆を塗るものと様々である。頭を持つ人のことをカシラモチ※と呼ぶ。

●蚊帳（かや）

獅子の胴体に被せる布のこと。一般的には胴幕と呼ぶが、特に加賀の大獅子に被せる巨大な胴幕を「蚊帳」と呼ぶ。ほとんどの蚊帳が、牡丹に巻き毛の模様を染める。なお、胴体の後部には朱色に染めた麻を竹竿で垂らした「尾」が付く。



蚊帳

●棒振り（ぼうふり）

獅子に立ち向かう剣士のこと。子供から成人※が演じ、夏ごろから棒振りの練習を行うところが多い。武具は棒・太刀・薙刀を中心とし、演者も1人から3人※の組み合わせがある。



棒振り。シャンガンと呼ばれる白髪をかぶる

●懸帯前（けんたいまえ）

カシラモチを中心に、獅子側に立つ若衆。「懸帯」という帯を腰に提げる。帯には粟田・中林は「若」、本町地区は旧町名に因み、一丁目は「荒」、三丁目は「中」、四丁目は「西」の一字を刺繍している。



本町一丁目の懸帯前

●お囃子（おはやし）

演舞中や道中に流れる曲のこと。お囃子を演奏する囃子方を結成している地区もある。笛、太鼓、三味線を用いる。



粟田の囃子方

●弥彦（やひこ）・弥彦婆（やひこばば）・コジキボウズ

天狗面をかぶり、異様な風の着物を着て、錫杖を持つ。一斗缶を紐で体に結び付け、ガラガラとした音を立てて、獅子が来たことを家々に知らせる※。野菜神輿にあっては、天狗面の風体の者は「コジキボウズ」と呼び、「弥彦」は子供が演じる鬼の面で修行僧の姿をした者を指す。



本町三丁目

本町四丁目

※印は地区によって異なります。